

『〈教育と社会〉研究』 創刊の辞 再掲

〈教育と社会〉研究会は1990年に創立し、1991年に本誌『〈教育と社会〉研究』を創刊しました。そして2020年で本研究会は30周年を迎えました。本研究会の原点として創刊号（1991）冒頭の「創刊の辞」を再掲します。

『〈教育と社会〉研究』編集委員

創刊の辞

一橋大学社会学部教育社会学共同研究室に学び学びつつある私たちは、ここに〈教育と社会〉研究会を結成し、紀要として『〈教育と社会〉研究』誌を創刊する。本紀要の刊行を通して、構成員の個人的ならびに集団的な研究成果を世に問いつつ、そこに研究室としての新しい学風が形成されることを共に希望している。

教育社会学共同研究室の土台は、初代主任教授鈴木秀勇によって拓かれた教育社会学講座にある。本紀要の創刊は、共同研究室の今日までの充実と発展の証左である。私たちの学問の共同性の基礎である教育社会学とは、19世紀以降の社会科学の歴史の中で登場してきた教育社会学という学問が教育学と教育の世界に対して提起した問題を正當に継承するものではあるが、世にいう「教育社会学」とは必ずしも同一のものではない。私たちのいう教育社会学とは、通常のエデュケーションを含みつつもそのみに限定されない、教育諸学の共同によって〈教育と社会〉との関連を問うていく広義の〈教育と社会〉学であると考えている。従ってそこには、構成する教官、助手、院生の専門領域に見られるように、広範な研究分野が存在し、教育研究の中の一つの学際的研究の色彩をもっている。

そのような広範な研究分野から構成される〈教育と社会〉学は、今日、教師の授業計画から自治体、国際団体等のおこなうものにまでいたる〈教育計画と教育改革〉のための基礎研究たることを目指している。〈教育計画と教育改革〉とは、社会の要求と教育的行為との調整と改編によるつながりを、教育関係、教育過程、教育集団の全連関にわたって遂行しようとする、人々の共同の営為である。

かかる営為に十全に貢献しうる研究は、現代日本において未開拓の分野である。私たちは、各人がそれぞれ独自のアプローチをもち、同時に理論・歴史・現状分析のいずれをも欠くことのない、〈教育計画と教育改革〉のための〈教育と社会〉学の構築に向けて力を尽くしていきたい。〈教育計画と教育改革〉の主題とは、一言でいうならば、社会変動のインパクトの下〈教育と社会〉の関係の調整を図ることであろう。それは理論的には、〈教育の目的的规定と社会的規定〉の相克というアポリアをどう解くかという問題として定立される。

この〈教育と社会〉の関係の調整問題への最近日本での回答のひとつが、1960年代に策定された人的能力開発計画であったことは周知のところであろう。子ども・青年の成長発達のかげがえのない固有の価値に目をつぶり、人間を“もの”にとらえた長期総合教育計画が、工業化社会における近代工業生産と労働力養成とを安易に結びつけることによって、偏差値・競争教育への引き金をひき、日本の教育を危機においこんだことは、今日、だれの目にも明らかである。

けれども、この歴史的教訓をみずえることは、歴史的現実のただなかを自立して生きる力の形成という教育的人間形成のしごとが、それ自体社会的に規定されたものであるという平明な事実を看過し、それらを社会から切り離す形で実体化し、結果として教育研究の土台を別の方向でせばめるあれこれの傾向にくみするものではない。近年の「学校批判」論、「再生産」論、「新しい教育社会学」などの提起は、かかる傾向への批判をなすものであり、私たちは、この提起を受けとめつつ、人的能力開発計画とは異なる〈教育と社会〉のつながりのもうひとつの道を探求している。もうひとつとは何か。これを端的に言えば、現代人

権概念を介した両者のつなぎの途ということである。

「＜教育と社会＞のもうひとつのつなぎ」の探求は、現代企業社会への対抗文化＝「もうひとつの生き方」の模索と固く結びつかなくてはならない。教育のあり方は、労働・生活のあり方と二つにして一つなのである。それ故、私たちの構築しようとする＜教育と社会＞学は、子ども・青年の発達の問題のみならず、こうした成人の生き方の問い直しの営為をも射程に入れ、それによって支えられるものでなくてはなるまい。

＜教育と社会＞学を、私たちは狭義の当為の学として考える必要はない。本共同研究室の研究活動の端緒であった教育思想史の研究は＜教育と社会＞の過去と未来の、比較研究はそのグローバルでエコロジカルな連関の、そして社会史研究は人びとによって生きられてゆくその過程の、事実在即した解明を目的とし、理論教育社会学の領域をも含みつつ、もって＜教育と社会＞学の一環をなしているのである。

研究は個々人の自由であり、テーマもまた自由・多様であってかまわない。と同時に、各人が各人らしいやり方で、自らのテーマを＜教育計画と教育改革＞の基礎研究たることを目指した＜教育と社会＞学研究の中に位置づけつつ、自己の研究を進めていくことによって、新たな学風がゆるやかながらも形成されるという希望をもって、創刊の辞とする。

一橋大学＜教育と社会＞研究会